第２号報告

2026 年度（令和 8 年度）一般社団法人山梨県バレーボール協会
運営基本方針

一般社団法人山梨県バレーボール協会（YVA）の理念
「山梨県内におけるバレーボールの普及と啓発をめざします。」

2025 年 7 月 1 日に一般社団法人山梨県バレーボール協会（以下 YVA）となり、新たな一歩を踏み出すこととなった。

今まで以上に責任・義務を明確化し、「山梨県におけるバレーボール関係団体を統括し、代表する団体としてバレーボール競技の普及及び振興を図り、県民の健全な心身の発達に寄与し、豊かな人間性を涵養することを目的とする」という目的に向けて業務を遂行していかなければならない。

特に、2032 年には山梨県にて第 86 回国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会が開催される。YVA が国スポ大会に競技運営だけの関わりだけでなく、強化面など多岐に関りを持つことによって県内のバレーボール熱を高め、さらに協会組織のレベルアップにも繋げることが期待される。

このようなことから、組織基盤の安定化・健全化に軸足を置くとともに、中長期的な視点での戦略を見据えつつ、2026 年度の運営方針を次のとおりとする。

１ ガバナンス（管理体制）、コンプライアンス（法令遵守）の強化

組織のより一層の透明性を図るためにもガバナンスコード（組織・団体が活動を続けていくうえで遵守すべき基準や規範。組織の統治体制を確立し、透明性、公正性、信頼性等を保つための枠組み）を策定し、県内ステークホルダー（利害関係者）への説明責任に努め、コンプライアンスの強化を進める。

2023 年に県内高校バレーボール部で監督による部員への体罰事案があったことは記憶に新しい。また昨年度、ガバナンスの脆弱さに起因し、大会運営等においてコンプライアンス違反に繋がる事案が発生した。これらを踏まえ、今後もガバナンス及びコンプライアンス体制の強化に継続的に取り組む。

（１）チーム指導における体罰・暴言・パワーハラスメントの撲滅
（２）ガバナンスコードの策定

２ 健全な財源の確保

法人の健全運営に不可欠である財源確保が求められるため、貴重な財源のあり方や収支バランスの改善に取り組む必要がある。

主な財源である個人登録料の改定を昨年度行ったところであるが、その推移に注視するとともに、今年度は、チーム登録料の改定について検討を行っていく。

長年にわたり改定していない大会参加費等の見直しについても検討を進める。新規事業の立ち上げ等を踏まえ、事業収入の獲得に努める。

（１）会員及びサポート会員の増加
（２）個人登録及びチーム登録の増加

（３）新たな事業収益の開発・研究

３ 普及と強化

各種別の国スポ本大会への出場をめざし、継続した強化対策を講じる。

また、2032 年の山梨国スポに向けた強化を始めていく必要がある。特に、少年男女及びビーチについては、ターゲットエージである選手に向けた強化練習会等を含めた強化計画の策定を目指す。

昨年度、JVA から委託された小学校への授業支援プログラムの継続をはじめ、これまで実施してきた普及活動をさらに推進させていき、競技人口の拡大を図る。

（１）普及活動による競技人口の拡大

（２）全国大会で活躍できるチーム・選手の育成

４ マンパワーの発掘

YVA の理念や目的を達成していくためには、多くの方々が参加したくなるような魅力のある組織であるべきと考える。

魅力のある組織づくり、会員にとっても魅力のある団体を目指し、YVA の存在意義を考え続けなければならない。

今後は、専門性と情熱の両立を図れるマンパワーの確保が、組織の持続的発展において重要な鍵となることを自覚し、人材の発掘・育成に取り組む。

（１）協会役員の確保

（２）若手・女性人材の発掘・登用

５ Ｖリーグの安心・安全な運営

日本バレーボール協会(JVA)は、社会人の新リーグ「日本バレーボールリーグ」(V リーグ)の発足を発表した。この V リーグへ山梨からは 2 チームが参入することとなった。女子は３年連続でアマチュア日本一に輝いている「山梨中央銀行」、男子は新たに発足する「VC 山梨」が参戦する。待望の地元 V リーグチームのホームゲームに関しては、安心・安全な運営を目指していく。V リーグ全体の発展には、選手や関係者が一体となってチャレンジしていくことが必要となる。YVA もできるだけの支援をしていきたい。

（１）大会運営を通じた YVA の事業活性化

（２）審判員や技術統計員、競技役員などの大会運営に関わるスタッフの育成